

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	437150010
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 遊鳥
訪問調査日	平成 21 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 21年 4月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	437150010
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 遊鳥
所在地	熊本県天草市栖本町湯船原759番地 (電 話) 0969-66-3223

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年4月21日

【情報提供票より】(21年 2 月8 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85・67 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本原内科小児科医院 ・訪問歯OCSさくら・栖本医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海・山の自然の恩恵を受けたホームは理念に沿ったゆっくり・笑顔・安全な生活が職員の心をつなげたケアによって実践されている。見事な菜園や花壇の勢いは入居者と職員の協力によりホームの元気の源となっている。運営者の福祉に対する思いは職員の人選にもうかがわれ、資格や経験だけにとらわれない人としての配慮や個性を重んじた採用となり、ホーム内は明るさとその日その時を大切にされたケアが随所を感じ取れる。開設から三年が経過し地域との関係も構築され今後はホームの持つ機能が地域に反映されることが期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を受け、運営推進会議の報告を家族に確実にこなうという改善課題により、早急に議事録の送付を行い共有することにより、ホーム内の状況を把握でき新たな意見を得る機会となった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は外部評価の意義について確認することから始め、自己評価を全員で取り組み最終的に管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	多方面からの参加を得て、定期的開催される会議は、ホームの現況報告をはじめ前回の会議で提案された内容に対する返答を行なっている。ボランティア訪問は勇気がある!という意見に対して、ホームよりボランティア内容の事前報告があれば訪問しやすいなど有意義な解決案が出された。又、参加者の持つ専門的な立場からのアドバイスも行なわれホーム運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や公的機関の苦情窓口を表示している。又、家族が意見・要望を出しやすい雰囲気作りにも配慮している。今回の外部評価を一つの機会とし出された意見要望に対しては早急に対応していきたいとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りへの参加や日常的な散歩や買物での交流をはじめ、入居者の体調に配慮しながらできるだけ外出の機会を作り地域との交流を深めるよう努めている。ボランティアの訪問も増えてきており、今後はもっと地域の人々に足を運んでもらいたいとしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より独自の理念を掲げケアの柱としている。道路入り口のホーム案内板にも理念をのせ、地域に向けた啓発を行っている。現在地域密着型サービスとしての理念の変更や補足を検討中としている。	○	現在の理念を活かしながら地域密着型サービスとしての文言を追加することで、更に支援体制の枠組みが確立するものと思われる。実現に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに掲示し、職員は日々のケアの規範としながら原点に立ち返り入居者によりよいサービスができていないかを日常的に話し合っている。又、毎朝の申し送りの最後に全員で理念を唱和し心新たに一日をスタートしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りや地元で古くから伝わる伝説の祭りを見学したり、町と中学校が合同で開催する文化祭に参加するなど入居者と共に外出する機会を作っている。又、地元の“どんどや”に参加した際には、近隣住民の方が入居者の為にイスを用意して待っていてもらうなど協力が得られている。地域のボランティア訪問なども増えてきており今後はもっと地域の人々に足を運んでもらいたいとしている。	○	ボランティアの受け入れを足がかりに、地域の人々との交流に力を入れたいとしており実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を十分認識し、改善課題であった運営推進会議の議事録の家族への送付等を行っている。今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめあげた。自己評価で重度化した方以外の入居者に対する精神的ケアの不足をあげ全力で取り組む意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度定期的に開催され、ホームの現況報告と共に前回会議で挙げた質問に対応したり地元の駐在所の方に参加してもらい入居者の様子、建物内外の配置、非難経路などを確認してもらい有事の際の協力などを呼びかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険等について市の担当者に相談したり、市からのホーム空き状況の問い合わせに応じると共に運営推進会議に参加する地域包括支援センター職員との情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する広報誌に担当職員が入居者の近況を報告し、緊急な場合は電話で連絡している。入居者より預かった金銭については三ヶ月ごとに報告を行い、来訪時に家族に提示し確認印で了承を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり公的機関の苦情相談窓口を表示している。家族が話しやすい雰囲気を作るよう心がけ面会時の会話を大切にしている。今回の外部評価も家族の意見要望を受ける機会とし、これまでの外部評価結果もホールの掲示コーナーに置き、来訪者がいつでも見ることが出来るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は離職による入居者へのダメージを最小限に抑えるとともに新しい職員に対しても、一・二ヶ月後から夜勤導入を行い初回～二回は二名体制とするなど配慮している。家族の訪問時や運営推進会議の席で報告も行っている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや外部研修に積極的に参加している。職員のスキルアップに各資格受験を推進し受験のアドバイスや取得後の手当などに反映させている。同系列グループホームとの合同親睦会やお互いのホームの運営推進会議にも職員同士が参加し切磋琢磨しながら交流を深めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、三ヶ月ごとの会で情報交換を行ったり、他ホームの見学に数名の職員が参加するなど交流を図っている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学でホームの雰囲気を味わってもらい入居後の生活がスムーズにいくよう支援している。病院や他施設からの入居については直接本人を訪問し担当者や家族から情報収集を行い全職員で共有しながらサービスの統一に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は親しい仲にも節度と礼儀を重んじた対応で入居者一人ひとりを支えている。方言を交えた言葉使いも相手を思いやる計らいがみられる。高齢化の為色々な取り組みに以前のような積極的な気持ちは薄くなってきているが、できる事をできる方が手伝われ、職員もゆっくと対応している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一の会話で出た入居者の思いをしっかり把握しケアに活かしている。意志表示の困難な入居者へは行動をみながらその意を汲み取っている。入居者の地域の城跡に行きたいという要望に母体のワゴン車で外出し弁当をかこみ有意義な時間を過ごした。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
		○チームでつくる利用者本位の介護計画			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をくみ取りながら職員の日々の気づきをプランに反映させている。家族に対し支援方法の説明を行い協力も得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的及び随時の見直しが行われているが、実際のケア変更プランが追いついていないと管理者は謙虚に受け止め、統一したケアが出来るよう入居者の状態変化に応じて早急な見直しを行いたいとしている。	○	全職員が同じ意識を持ってケアにあたるように、プランの見直しが図られることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診同行や買い物支援をはじめ、母体事業所(福祉用具)の車・車椅子借用や安価での介護用品購入、同系列グループホームとの職員協力など柔軟に対応支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム近隣の協力医院をかかりつけ医としている入居者が殆どであるが、以前からのかかりつけ医をそのまま継続している入居者もいる。協力医による定期的な往診は家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度一名の看取りを経験し、現在数名の家族と重度化や終末期に向けた話し合いを行っている。医療機関への入院で退居した方へも誕生日の寄せ書きをして見舞うなど断ち切らない関係を大切にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に応じた呼称や言葉かけをしている。プライバシーに配慮し記録は本人以外はイニシャルで記入したり、重要な書類は事務所にて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるものの、個別援助を基本とし生活歴等の情報を把握した中で個々に応じた楽しみごとの支援に努めている。訪問当日も玄関の植物に手際よく水やりをされる入居者、自分の希望の入浴時間を職員に伝えられる入居者など個人のペースを大切にしたい関わりの場面を確認できた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや調理の準備、(つわの皮むき・貝の身を出す作業)、後片付け等できることを一緒に行っている。行事食や誕生日の希望メニュー食、びな(貝)やおさ等郷土食支援も入居者の楽しみとなっている。職員も同じ時間に同じものを食する事で入居者の体調や好みを確認しながらゆったりとした食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は昼食後一息ついた三時～と夕食後より七時位の間で支援している。希望によってはその都度対応している。最低週三回は入浴を楽しんでもらい、拒否の方や体調に応じ清拭や部分浴・足浴で支援している。日帰り旅行で温泉施設も計画している。		
^					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、モップかけ、料理の下準備やスーパーでの買い物など個々に応じた支援を行っている。書道を趣味とされる入居者の作品はホームにも掲示され励みとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じ散歩やスーパーでの食材の買出し、近隣商店でのホーム愛猫の餌購入に出かけている。青のりつみの様子を見学するなど、その土地・季節を大切にした支援も行われている。今後も個々の健康状態に配慮しながら無理のない外出支援を行いたい意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りや鍵をかけることの弊害は全職員認識し玄関の施錠は行っていない。不穏や外出したい入居者へも職員の気づきにより見守りや寄り添いで一緒にホーム内や敷地内・近隣を散歩するなど自由な生活を支援している。面会時間の設定もなく、夜の九時頃に面会に来られ入眠を確認して帰られる家族もおられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと消火・通報・避難・救急蘇生法の訓練を実施している。近隣の方の参加を依頼しているが実現には至っていない。消防署より職員が一番少ない時間帯での訓練の必要性を指導された。	○	有事の際に備え近隣の方の参加を得ての訓練の実施に期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食時やおやつ時、必要に応じ水分確保を行っている。キザミや食べやすい量にカットしたり、とろみ食など個々に応じた対応である。摂取量は全員、水分は1000CCを目安に必要な時、必要な方のみ記録に残し健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は入居者と植えた季節の花や野菜が咲き誇り和やかな雰囲気である。床暖房の広いリビングルームには大型テレビに向かってゆったり座れるソファが設置され入居者の寛ぎの空間となっている。ソファの位置は入居者の希望やイベント等によって変更している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・クローゼット・ベットが備え付けられた居室には、必要に応じ加湿器が設置され、家族の協力を得て馴染の家具やテレビ・写真・カレンダー等が持ち込まれ思い思いの部屋となっている。又、本人の身体機能を落とさないようにベットから畳の間に移行するなど個々に応じた支援である。こまめな換気や定期的なエアコンのフィルター掃除・窓拭きを行い居心地のよい居室に繋げている。		

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 3月 17日 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 40分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 遊鳥 ----- 熊本県
評価調査員の氏名	氏名 <u>児玉 由紀子</u>
	氏名 <u>宗田 益美</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者兼計画作成担当</u>
	氏名 <u>北内 謙司</u>
	ヒアリングを行った職員数 (1)人

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 4月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	437150010
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 遊鳥
所在地	熊本県天草市栖本町湯船原759番地 (電話) 0969-66-3223
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205
訪問調査日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(21年 2月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 29日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85・67 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本原内科小児科医院 ・訪問歯OCSさくら・栖本医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海・山の自然の恩恵を受けたホームは理念に沿ったゆっくり・笑顔・安全な生活が職員の心をつなげたケアによって実践されている。見事な菜園や花壇の勢いは入居者と職員の協力によりホームの元気の源となっている。運営者の福祉に対する思いは職員の人選にもうかがわれ、資格や経験だけに囚われない人としての配慮や個性を重んじた採用となり、ホーム内は明るさとその日その時を大切にされたケアが随所と感じ取れる。開設から三年が経過し地域との関係も構築され今後はホームの持つ機能が地域に反映されることが期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を受け、運営推進会議の報告を家族に確実にこなうという改善課題により、早急に議事録の送付を行い共有することにより、ホーム内の状況を把握でき新たな意見を得る機会となった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は外部評価の意義について確認することから始め、自己評価を全員で取り組み最終的に管理者がまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	多方面からの参加を得て、定期的開催される会議は、ホームの現況報告をはじめ前回の会議で提案された内容に対する返答を行なっている。ボランティア訪問は勇気がある!という意見に対して、ホームよりボランティア内容の事前報告があれば訪問しやすいなど有意義な解決案が出された。又、参加者の持つ専門的な立場からのアドバイスも行なわれホーム運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や公的機関の苦情窓口を表示している。又、家族が意見・要望を出しやすい雰囲気作りにも配慮している。今回の外部評価を一つの機会とし出された意見要望に対しては早急に対応していきたいとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りへの参加や日常的な散歩や買物での交流をはじめ、入居者の体調に配慮しながらできるだけ外出の機会を作り地域との交流を深めるよう努めている。ボランティアの訪問も増えてきており、今後はもっと地域の人々に足を運んでもらいたいとしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より独自の理念を掲げケアの柱としている。道路入り口のホーム案内板にも理念をのせ、地域に向けた啓発を行っている。現在地域密着型サービスとしての理念の変更や補足を検討中としている。	○	現在の理念を活かしながら地域密着型サービスとしての文言を追加することで、更に支援体制の枠組みが確立するものと思われる。実現に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やホールに掲示し、職員は日々のケアの規範としながら原点に立ち返り入居者によりよいサービスができていないかを日常的に話し合っている。又、毎朝の申し送りの最後に全員で理念を唱和し心新たに一日をスタートしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りや地元で古くから伝わる伝説の祭りを見学したり、町と中学校が合同で開催する文化祭に参加するなど入居者と共に外出する機会を作っている。又、地元の“どんどや”に参加した際には、近隣住民の方が入居者の為にイスを用意して待っていてもらうなど協力が得られている。地域のボランティア訪問なども増えてきており今後はもっと地域の人々に足を運んでもらいたいとしている。	○	ボランティアの受け入れを足がかりに、地域の人々との交流に力を入れたいとしており実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を十分認識し、改善課題であった運営推進会議の議事録の家族への送付等を行っている。今回の自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめあげた。自己評価で重度化した方以外の入居者に対する精神的ケアの不足をあげ全力で取り組む意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度定期的に開催され、ホームの現況報告と共に前回会議で挙げた質問に対応したり地元の駐在所の方に参加してもらい入居者の様子、建物内外の配置、非難経路などを確認してもらい有事の際の協力などを呼びかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険等について市の担当者に相談したり、市からのホーム空き状況の問い合わせに応じると共に運営推進会議に参加する地域包括支援センター職員との情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する広報誌に担当職員が入居者の近況を報告し、緊急な場合は電話で連絡している。入居者より預かった金銭については三ヶ月ごとに報告を行い、来訪時に家族に提示し確認印で了承を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり公的機関の苦情相談窓口を表示している。家族が話しやすい雰囲気を作るよう心がけ面会時の会話を大切にしている。今回の外部評価も家族の意見要望を受ける機会とし、これまでの外部評価結果もホールの掲示コーナーに置き、来訪者がいつでも見ることが出来るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は離職による入居者へのダメージを最小限に抑えるとともに新しい職員に対しても、一・二ヶ月後から夜勤導入を行い初回～二回は二名体制とするなど配慮している。家族の訪問時や運営推進会議の席で報告も行っている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや外部研修に積極的に参加している。職員のスキルアップに各資格受験を推進し受験のアドバイスや取得後の手当などに反映させている。同系列グループホームとの合同親睦会やお互いのホームの運営推進会議にも職員同士が参加し切磋琢磨しながら交流を深めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、三ヶ月ごとの会で情報交換を行ったり、他ホームの見学に数名の職員が参加するなど交流を図っている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学でホームの雰囲気を味わってもらい入居後の生活がスムーズにいくよう支援している。病院や他施設からの入居については直接本人を訪問し担当者や家族から情報収集を行い全職員で共有しながらサービスの統一に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は親しい仲にも節度と礼儀を重んじた対応で入居者一人ひとりを支えている。方言を交えた言葉使いも相手を思いやる計らいがみられる。高齢化の為色々な取り組みに以前のような積極的な気持ちは薄くなってきているが、できる事をできる方が手伝われ、職員もゆっくと対応している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一の会話で出た入居者の思いをしっかり把握しケアに活かしている。意志表示の困難な入居者へは行動をみながらその意を汲み取っている。入居者の地域の城跡に行きたいという要望に母体のワゴン車で外出し弁当をかこみ有意義な時間を過ごした。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
		○チームでつくる利用者本位の介護計画			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をくみ取りながら職員の日々の気づきをプランに反映させている。家族に対し支援方法の説明を行い協力も得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的及び随時の見直しが行われているが、実際のケア変更プランが追いついていないと管理者は謙虚に受け止め、統一したケアが出来るよう入居者の状態変化に応じて早急な見直しを行いたいとしている。	○	全職員が同じ意識を持ってケアにあたるように、プランの見直しが図られることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診同行や買い物支援をはじめ、母体事業所(福祉用具)の車・車椅子借用や安価での介護用品購入、同系列グループホームとの職員協力など柔軟に対応支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム近隣の協力医院をかかりつけ医としている入居者が殆どであるが、以前からのかかりつけ医をそのまま継続している入居者もいる。協力医による定期的な往診は家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度一名の看取りを経験し、現在数名の家族と重度化や終末期に向けた話し合いを行っている。医療機関への入院で退居した方へも誕生日の寄せ書きをして見舞うなど断ち切らない関係を大切にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に応じた呼称や言葉かけをしている。プライバシーに配慮し記録は本人以外はイニシャルで記入したり、重要な書類は事務所にて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるものの、個別援助を基本とし生活歴等の情報を把握した中で個々に応じた楽しみごとの支援に努めている。訪問当日も玄関の植物に手際よく水やりをされる入居者、自分の希望の入浴時間を職員に伝えられる入居者など個人のペースを大切にしたい関わりの場面を確認できた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや調理の準備、(つわの皮むき・貝の身を出す作業)、後片付け等できることを一緒に行っている。行事食や誕生日の希望メニュー食、びな(貝)やおさ等郷土食支援も入居者の楽しみとなっている。職員も同じ時間に同じものを食する事で入居者の体調や好みを確認しながらゆったりとした食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は昼食後一息ついた三時～と夕食後より七時位の間で支援している。希望によってはその都度対応している。最低週三回は入浴を楽しんでもらい、拒否の方や体調に応じ清拭や部分浴・足浴で支援している。日帰り旅行で温泉施設も計画している。		
^					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、モップかけ、料理の下準備やスーパーでの買い物など個々に応じた支援を行っている。書道を趣味とされる入居者の作品はホームにも掲示され励みとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じ散歩やスーパーでの食材の買出し、近隣商店でのホーム愛猫の餌購入に出かけている。青のりつみの様子を見学するなど、その土地・季節を大切にした支援も行われている。今後も個々の健康状態に配慮しながら無理のない外出支援を行いたい意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な出入りや鍵をかけることの弊害は全職員認識し玄関の施錠は行っていない。不穏や外出したい入居者へも職員の気づきにより見守りや寄り添いで一緒にホーム内や敷地内・近隣を散歩するなど自由な生活を支援している。面会時間の設定もなく、夜の九時頃に面会に来られ入眠を確認して帰られる家族もおられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと消火・通報・避難・救急蘇生法の訓練を実施している。近隣の方の参加を依頼しているが実現には至っていない。消防署より職員が一番少ない時間帯での訓練の必要性を指導された。	○	有事の際に備え近隣の方の参加を得ての訓練の実施に期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食時やおやつ時、必要に応じ水分確保を行っている。キザミや食べやすい量にカットしたり、とろみ食など個々に応じた対応である。摂取量は全員、水分は1000CCを目安に必要な時、必要な方のみ記録に残し健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は入居者と植えた季節の花や野菜が咲き誇り和やかな雰囲気である。床暖房の広いリビングルームには大型テレビに向かってゆったり座れるソファが設置され入居者の寛ぎの空間となっている。ソファの位置は入居者の希望やイベント等によって変更している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・クロゼット・ベットが備え付けられた居室には、必要に応じ加湿器が設置され、家族の協力を得て馴染の家具やテレビ・写真・カレンダー等が持ち込まれ思い思いの部屋となっている。又、本人の身体機能を落とさないようにベットから畳の間に移行するなど個々に応じた支援である。こまめな換気や定期的なエアコンのフィルター掃除・窓拭きを行い居心地のよい居室に繋げている。		